



Ⅲ 学習指導・進路指導について	①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。		100	0	B
	生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。		88	12	B
	保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。		82	18	B
	考察	<p>およそ1割の生徒、2割の保護者が「授業がわかりにくい」と感じている。教室に例えば30人生徒がいれば、理解力の差も30通りある。教師として、どこに焦点をあてて授業を行っているか？ありがちなのは、よく発言する生徒の言動によって授業が流れていくパターンである。このような授業展開では、ゆっくりと理解する生徒はついていくことが出来ず、次第に口を閉ざすようになってしまう。一斉授業が陥る最大の問題である。これを打開するためには、理解できない生徒が「わからないから教えて」と言える雰囲気や授業に醸成し、お互いに学び合う授業づくりに、より一層取り組んでいかなければならない。校内研を有効に活用し、全職員で授業改善に取り組まなければならない。</p>				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研を有効活用し、理論を学び、実践を積み重ねる。（★研究主任のリーダーシップをとり、スーパーバイザーの招聘を積極的に行う）</li> <li>研究授業におけるスーパーバイザーや指導主事の助言をもとに、平素の授業での改善に取り組む。（★校長、教頭の授業観察における指導を中心に行う）</li> </ul>				
	②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。		100	0	B
	生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。		87	13	A
	保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。		77	23	C
	考察	<p>教師、生徒、保護者で非常に評価が分かれた項目である。これについては、「教師は授業の工夫改善に取り組んでいる（肯定評価100%から）が、その成果はまだ納得のいくものではない」のであり、「生徒はその教師の努力を理解してくれている」のだと考えられる。保護者の評価が両者に比較して低いことは、別紙生徒アンケート結果の「学校のことを家で話すか」項目で約3割の生徒が「話さない」と答えているように、このような教師の努力が保護者に伝わっていないことも、その大きな理由であろう。また保護者が来校する時は非常に限られて（三者懇談、学園祭等の行事等）いるため、普段の学校の様子、授業の様子が理解されていないことも理由の一つであろう。学校開放日（週間）を通信等で周知し、多くの保護者に頻りに学校に来ていただき、実際を知っていただくことが解決のための近道であると思われる。</p>				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学び合い」授業の実践の継続と小学校の校内研への参加を促す。（★研究主任のリーダーシップのもと全教諭が積極的に公開研究会へ参加する）</li> <li>学校開放日のさらなる周知を通信・HP等で充実させる。（★教頭及び情報教育主任が役割分担を徹底する）</li> </ul>				
	③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。		85	15	B
	生12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。		89	11	B
保12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めていると思いますか。		77	23	C	
考察	<p>「学び合い」は小学校でも校内研究で取り組んでいる。そのため、中学校の学び合いの授業にも生徒は非常にスムーズに対応している。このことは小中連携という意味でも大変素晴らしいことである。しかし残念ながら我々教師の「学び合い」に対する取り組みに差があることも事実である。これは本年度職員の半数が入れ替わり、「学び合い」授業の経験の無い職員が多いこともその一因である。我々教師は授業のプロフェッショナルとして、一人一人が授業改善に取り組み、校内研を有効に活用してさらに理論と実践を積み重ね、「学び合い」の本質に迫るべく研究を深めていかなければならない。この取り組み継続が生徒の姿を変え、それが保護者に伝わることで評価の改善を図りたい。</p>					
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研を有効活用し、理論を学び、実践を積み重ねる。（★研究主任のリーダーシップのもと、全職員が授業改善に取り組む）</li> <li>研究授業におけるスーパーバイザーや指導主事の助言をもとに、平素の授業での改善に取り組む。（★校長、教頭の授業観察における指導を中心に行う）</li> </ul>					
④	少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を行っている。		76	24	C	
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。		87	13	A	
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。		77	23	C	
考察	<p>教師評価が低く、改善の必要がある項目である。「学び合い」の授業では、より高いレベルにチャレンジするための「ジャンプ課題」の設定が必要不可欠であるが、このジャンプ課題はその内容や難易度設定等が非常に難しく、これが教師にとって「学び合い」授業を日常的に実施する大きな壁となっている。しかし、このジャンプ課題の追研こそが、生徒にとっても「学び合い」のさらなる発展・向上につながる大切なポイントであり、学力向上の有効な手立ての一つでもあるため、今後とも継続した取り組みが必要である。なお、習熟度別授業については、教育課程上の実施の可否、効果の是非についても様々な考え方があり、継続して検討していかなくてはならない問題である。</p>					
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の授業で「ジャンプ課題」の設定を継続して行う。（★各教科担当が平素の授業で取り入れる）</li> </ul>					

IV 生徒指導・ 道徳指導 について	⑤	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。		97	3	B
	生14	先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。		83	17	B
	保14	先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いますか。		82	18	B
	考察	<p>全体的な肯定評価は高いものの、積極的な評価（A評価）は少なく、また否定的な評価を持つ生徒・保護者も2割近くいることを考えると、これも改善が必要な項目である。この指導と評価の一体化は、指導の状況を評価し、それをまた指導に生かすといったPDCAサイクルが重要であり、日常的な授業で常に行われるべきものである。教師は常に自分の授業を振り返り、改善を行わなければならない。もちろんすべての教師がさまざまな研修に参加し、授業改善のために日々努力を続けている。この努力が生徒に認められ、それが引いては保護者に認められるよう、今後とも努力していきたい。</p> <p>また、生徒のみならず大人もすべてであるように、人はみな承認欲求を持っている。自分の努力や取り組みが認められると、それが意欲につながり、さらに高い目標に邁進できる。このように評価とは人を伸ばすものである。ぜひ「褒めて伸ばす」指導を今後とも全職員で継続していきたい。また学校全体として良いことはオープンに認め合う風を醸成したい。</p>				
	改善	・様々な場面や方法（学活、集会や口頭、通信等）で褒める、励ます、認める評価を励行する。（★全職員が意識する）				
	⑥	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。		82	18	B
	考察	<p>進路指導は、生き方の指導であり、職業観の指導であり、しっかりと将来を見据える指導である。故に、各教科・道徳・総合・特別活動において、計画的に全学年で行われるべきものである。若草中学校においても、全体計画に基づき、各学年の発達段階に応じた取り組みを行っている。卒業に向けて適切な進路選択が行われるよう、今後とも現状の活動をPDCAサイクルを行いながら工夫改善し、より良い進路指導のための努力を続けていきたい。</p>				
	改善	・各学年での取り組みを基盤として、PDCAサイクルで工夫改善を行っていく。（★学年主任のリーダーシップのもと、各学年で共通理解のもとに実施する）				
	学校 ご意見 関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を参観させていただいたが、生徒が落ち着いて授業に参加している姿が印象的だった。日々の授業がしっかりと行われていることがうかがえた。ぜひ今後とも授業を大切にしていってほしい。</li> <li>・目立つ生徒を評価することは比較的簡単だが、普段はあまり口を利かないおとなしい生徒を同様に評価することは難しい。同じ目で、同じように評価できるよう、普段からの生徒の様子を注意深く見守ってほしい。</li> <li>・保護者の評価が生徒と比較すると厳しい。これは、わが子に対する期待からどうしても厳しく見てしまいがちになるからだと思う。また、学校のことをそれほど知らない保護者も多く、子どもからの一方的な情報だけで判断する。子どもも、良いことや悪いことなど、両極端な事柄しか話さないことも多いので、保護者の学校の知識もかなり偏っているのではないかと感じる。教師としては一斉授業の方がやりやすく、また「教える」という感覚があると思いますが、「学び合う」授業を工夫されていることがうかがえます。保護者は、学校や授業の様子がわからずに評価している人も多いと思います。</li> <li>・規模の大きな学校で、生徒も多く、何かと先生方も大変だと思いますが、誰でも努力を認められると嬉しく、自信につながると思います。</li> <li>・「学び合い」授業では、考察にもあるように「ジャンプ課題」の内容や設定が難しく、試行錯誤しながら進めている姿が見られるが、これからも改善努力を続けてください。</li> </ul>				
	①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。		97	3	A
生15	先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。		84	16	B	
保15	先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれていると思いますか。		78	22	C	
生16	学級担任の先生のほかに、気軽に相談できる先生方がいますか。		70	30	C	
保16	お子さんは、担任の先生以外に、よく相談している先生方がいますか。		41	59	C	
考察	<p>先生方が、生徒のために親身になって対応している様子は、常日頃の言動から十分に伝わってくる。改善している生徒や救われている生徒も多く、本当に頭の下がる思いである。ぜひ今後とも一人一人を大切にした対応を続けてほしい。</p> <p>一方、生徒や保護者の中に、対応が不十分であるという意見があることは我々は真摯に受け止めなければならない。すべての生徒・保護者が納得する対応を目指して、日々研鑽し、協力し合い支え合い、チーム若草として成長していきたい。また、多くの生徒の気持ちに耳を傾けるということが、逆に問題がこじれたり逆効果になったりすることもある。このような場合にごそ、チーム若草として互いに支え合い励まし合いながら事の解決を図りたい。</p> <p>生徒・保護者の問16については、多面的な視点での考察が必要である。つまり、「担任の先生以外に気軽に相談できる先生がいらない」ということは、「担任の先生を信頼してなんでも相談している」ことの裏返しでもあると言えるからである。このような両面性のある問いは、その内容も含めて問そのものを改善していく必要がある。</p>					
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも、一人一人の生徒を大切にした対応を続けていく。（★情報交換の意識を全職員が持ち続ける）</li> <li>・一人で解決困難な課題に直面した場合には、チームとして対応できるよう組織を強固にする。（★学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SC等関係職員間の情報交換をこれまで同様でいぬいに行う）</li> </ul>					

②	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。		100	0	A
生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		89	11	B
保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		87	13	B
考察	学校も一つの社会であるから、一人の人間としての約束、集団としてのルール、あるいは上下関係のマナー等、様々な成文律・不文律、そして常識や慣習が存在する。これらを身につけることは、人として生きる上で非常に大切なことである。もしも生徒にしっかりと身につけていなければ、教師として指導することは当然の使命である。この項目について教師の肯定評価が100%であることは素晴らしい限りであり、普段から時に応じ場に応じ指導していることが伺える。 また、このような基本的な生活習慣は、家庭や地域でも育まれるものである。その意味では「一日の生活のリズムづくり」にしっかりと取り組んでいる家庭の在り方は、学校と家庭がともに手を携えて歩む教育の正しい姿を後押しするものであり、大変好ましい教育本来の形であると言える。				
改善	・家庭や地域の理解と協力を得ながら、これまでと同様に基本的な生活習慣の育成等の大切な指導を継続していく。（★生徒指導主事のリーダーシップのもと、スピード感のある対応を行う）				
③	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。		97	3	B
④	生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。		94	6	B
考察	インクルーシブな社会の実現のためには、学校教育の果たす役割は大きい。とりわけクラスや学年といった同年齢集団の中、あるいは部活動や委員会活動といった異年齢集団の中で、個性を認め合う気風を育てることは、今後社会に出たときにより一層必要で大切な資質を育てることになると言えよう。今後とも継続した指導を行い、「誰もが違う」ことを心から理解する生徒を育成していきたい。 そのために必要な情報交換の場が「生徒支援委員会」であり、ここでの情報交換がより良い生徒指導に結びついていることは言うまでもない。一人一人が得られた情報が生徒にフィードバックされるように、今後とも組織的・計画的な運営を継続していきたい。				
改善	・生徒支援委員会の情報を、多くの教師間で共有するための場を設定する。（★教務主任のリーダーシップのもと、定期的な情報交換の場を設定する）				
⑤	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳の実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。		75	28	C
生17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		87	13	B
保17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		76	24	C
考察	中学校では、2019年度から道徳が「特別な教科」となる。学校全体で行う道徳教育と、教科としての道徳との関連について、今後示されるであろう学習指導要領を読み解いて、若草中学校独自の教育課程を実施しなくてはならない。もちろん教科であるから評価が必要であるが、単純な数値評価ができないと予想されるため、評価の研究も合わせて進める必要がある。ともあれ、直前になって戸惑うことの無いように、少しずつ研究をはじめていきたい。 現状の道徳の授業は、残念ながら他の教科等に代わることもある。行事等の関係で止むを得ない場合もあることは重々承知しているが、道徳の授業が軽く扱われているという印象を保護者に持たれていることもまた事実である。もちろん道徳教育は1時間の道徳の授業だけで行われるものではなく、日常生活上のあらゆる場面で行われるものであり、そのような道徳教育への取り組みを先生方が一生懸命行っていることは、平素の様子から容易に知ることが出来る。このことについては、若草中学校の基盤づくりに大いに役立ち、またより良い学校作りを支えていることは言うまでもない。				
改善	・「私たちの道徳」を授業の中で活用する。（★道徳主任のリーダーシップにより各担任の意識の向上を図る） ・各学年ごとに道徳授業の時間を確保し、その内容について情報交換や資料の共同制作を行う。（★学年主任のリーダーシップ）				
⑥	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。		100	0	A
考察	不登校やいじめは学校が解決しなくてはならない喫緊の課題である。不登校については、小学校から引き続いているケースが非常に多く、そのため小中連携（情報交換）や外部機関（SC、SSW、支援学校等）との連携も頻繁に行われていて、教職員の意識もとても高い。いじめについては、早期発見・早期対応を行うための各種アンケートや、教職員の情報収集と情報交換も頻繁に行われており、これも同様に意識が高い。現在学校ではスピード感のある取り組みや対応を行っており、不登校の減少・いじめの撲滅のために全職員が一丸となっている。				
改善	・新たな不登校やいじめを生まないための取り組みを、今後とも継続していく。（★生徒指導主事、不登校担当のリーダーシップ）				
学 ご 校 意 見 係 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校（もちろん小学校も）で一番大切なことは、教科の学習もだが、それ以上に人としての生き方を学ぶことではないか。ここで人間の基礎を作らないと、将来社会で通用しない大人になってしまう。学ぶことは大人になっても、たとえ老人になってもできる。しかし人格形成は、いまやるしかない。その意味では道徳教育は非常に大切だと思う。ぜひ学校全体で力を入れてほしい。</li> <li>・中学生くらいになれば、なかなか先生に相談しにくい。その意味では、担任の先生に気軽に相談できるということは喜ばしい事実である。やはり担任の先生が一番と思うことが大切だと思う。</li> <li>・子どもの一日の生活リズムは家庭で管理することなので、もっと子どもの生き方に責任を持つことが大切だと思う。我々も地域でもっと親の責任について話さなければいけないと感じる。</li> <li>・生徒指導は大変ですが、「報告・連絡・相談・確認」を意識しながら取り組んでもらいたいです。道徳教育については「新聞の活用」もぜひ取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>・①はA評価ですが、努力をしていない3%が気になります。コミュニケーションから信頼関係が生まれると思います。</li> <li>・生徒、道徳指導は、生徒の社会性を高めるため日常的に行うべきものだと思います。したがって、日々粘り強く取り組んでいただきたいと思います。</li> </ul>				

V 特別活動について	①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。		100	0	B
	②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成就感が満たされる内容を工夫している。		100	0	B
	生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。		92	8	A
	保18	子どもたちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。		90	10	B
	考察	学校の特別活動の充実について、とりわけ生徒の評価が高いことは大変素晴らしいことである。いかに行事を多く仕組みでも「やらされている感」が強いと、生徒の満足感が高くない。自主的な活動を仕組みながら、レベルの高い目標に向けて努力させる教師の取り組みがあるからこそ、満足感や充実感が高くなるのである。教師評価はそれほど高くないが、教師自身が満足感や充実感を感じる取り組みとなるよう自己研鑽を続けていきたい。また、保護者評価が生徒評価と異なるということは、保護者の求めるものが生徒と異なるからであろうか。学園祭の感想やアンケート等から保護者の意識を探ってきたい。				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動の意義を全職員で共通確認し、その上で取り組みを具現化していく。（★各行事ごとにPDCAサイクルにて検証と改善を行う）</li> <li>様々なアンケート等を利用して、保護者の意識を明らかにしていく。（★教頭が、保護者意識の把握についての有効な手立てを検討し、運営委員会に提案する）</li> </ul>				
	③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。		97	3	A
	④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。		100	0	B
	考察	前年度から取り組んでいる朝読書は、豊かな感性の育成のために有効に機能していると言えるだろう。一日の始まりが静かで落ち着いた雰囲気からスタートすることは、授業への集中力の高まりや穏やかな生活につながることを期待できる。今後とも継続したい取り組みである。二学期はここからさらに一歩進めて、全校朝読書つまり生徒も教師もこの時間には全員が読書する時間にしたらどうか。また、読む本あるいは内容について、自分の好きな本を読む「自由読書」と、さまざまなジャンルのいろいろな読み物に触れるための「課題読書」というような、さまざまな取り組みに発展させていければ、より一層読書への関心意欲が高まることを期待できる。同時に図書委員会の活動内容にすることも検討したい。				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書の時間を生徒も教師も全員が本を読む時間に。（★各担任が実施し、順次全職員へと広げていく）</li> <li>読書内容の工夫と改善を、委員会の活動内容とからめて検討する。（★図書委員会担当が検討し提案する）</li> </ul>				
学校 ご 校 意 見 係 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年学園祭を見せていただいたが、子どもたちが生き生きと活動している様子が伝わってきた。とても良い雰囲気である。そして、周りでは多くの保護者や地域の方々がそれを見守っている。若草っていいところだと改めて感じた。</li> <li>本当は地域の人々がもっと学校に関わればいいのかもわからない。しかし、私を含めて敷居が高いと感じていることも事実である。それは四百人を超える学校と、どのように関わったらいいのかという先入観があるからかもしれない。規模の小さな小中学校ならばもっと気軽に関わられるのかもしれないが。</li> <li>読書は感性を磨くことに大変役立つと思う。ぜひ本好き、読書好きの生徒を育てていただきたい。</li> <li>学園祭では2日間ともに保護者の姿が多く見られ、良い傾向だと思います。</li> <li>朝読書は以前から有効だと言われているので、「読まされている感」がないよう、考察・改善の通りお願いします。</li> <li>生徒が誇りを持てるような校風を作っていくっていただきたいです。</li> </ul>					
VI 家庭・地域との連携について	①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。		100	0	B
	②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。		76	24	C
	考察	若草地区は新興住宅地域であり、古くからこの地域に住む住民と、他地域から転入してきた住民とが混在している。そのため地域基盤を大切に考える一方、相反する考え方を含めた様々な考え方や価値観も存在する。このことから地域や保護者からの情報は、その内容や種類は多岐に渡る。教師はそのさまざまな情報について、ひとつひとつ受け止めて、若草中教育の向上のために取り組んでおり、その姿には頭が下がる思いである。一方地域連携はまだ弱いと言わざるを得ない。しかし本校の地域連携は、新興住宅地ゆえの地域基盤の脆弱性が壁となることもあり、また学校規模による適性もあり、一筋縄ではいかないのが現状である。現在行われている活動の見直しを含めて、今後の検討課題である。				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携の在り方について、これまでの活動の総括を適切に行い、行事の再検討を行う。（★生徒会顧問による活動の総括と来年度の取り組みの方向性を検討する）</li> </ul>				
	③	学校・学年・学級だより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。		85	18	B
	生19	学校は、いろんなたよりのホームページなどで、出来事を積極的に連絡し、また公開していると思いますか。		82	18	B
	保19	学校は、各種たよりのホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。		80	20	C
	考察	各クラス、各学年、各担当で、適切な時期に時を逃さない内容で諸たよりを発行していただき大変ありがたいことである。生徒を通してだけでは伝わりきれない多くの情報が、適切な形で保護者に伝わることは、お互いの信頼関係を高めるうえで効果的に働き、開かれた学校づくりに大きく役立っている。一方、生徒や保護者そして地域の方々はホームページ上の情報開示を期待している。高度な情報化社会にあっては、デジタル情報も学校と家庭や地域社会とをつなぐ重要な役割を占めるため、スピード感のあるホームページ運営をしていく必要がある。				
	改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種たよりの継続的発行と内容の工夫改善を行う。（★各たよりの発行者による自己研鑽）</li> <li>ホームページ運営の改善を行う。（★情報教育主任がホームページの運営方法の検討を行い、順次改善していく）</li> </ul>				

	<p>学校関係者 ご意見書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若草という地域は、昔から住んでいる人たちと、新たに移住してきた人たちが混在している。新たに来た人たちは、地域に無関心な人も多く、組にも入らなかつたり近所づきあいが無かつたりする。地域も次第に難しさを増している。このような中で、学校と地域の連携は、必要なことだとは思いますが難しいと感じる。</li> <li>・いろんな便りを発行していることは承知している。しかし、親の手に渡らなければ意味がない。それは学校の責任ではなく、家庭の責任だと思う。</li> <li>・ホームページは時々見るが、たしかに内容はさみしい。先生方も忙しくて大変だが、楽しみにしている生徒や親もいることを考えて、充実させるために頑張ってください。</li> <li>・小規模校は地域との連携が強くなるでしょうが、若草中も地区内で一つの中学校として住民は関心があると思います。多忙な中を先生方には諸たよりを発行していただいていますので、支所や図書館など多くの場で多くの人の目に触れることができたらと思います。</li> <li>・CATVの放映から(学園祭)、生徒の様子が見られ、地域の方も楽しみにしています。ボランティア活動は、地域(三世代祭り・ちっくい祭り等)で見かけますが、地域に発信する工夫をしてはどうでしょうか？</li> <li>例)合唱・若草地区の文化祭等で披露 絵や作品・生涯学習センター等で展示 など。</li> <li>・生徒が健全に成長できるよう、学校と地域が互いに連携をとって、子供たちをサポートしていきたいと思っています。</li> </ul>					
<p>Ⅶ自身と職場について</p>	<p>①</p>	<p>学校へ来ることが楽しかった。</p>		<p>86</p>	<p>14</p>	<p>B</p>	
	<p>生1</p>	<p>あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。</p>		<p>90</p>	<p>10</p>	<p>A</p>	
	<p>保1</p>	<p>お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。</p>		<p>95</p>	<p>5</p>	<p>A</p>	
	<p>考察</p>	<p>学校へ来ることに楽しさを見出している生徒が多く、これはとりもなおさず先生方の努力の成果である。生徒が楽しいと感じ、その様子が保護者に伝わるので、保護者評価も高い。生徒・保護者に比較すると先生方の評価が若干低いが、先生方が明るく笑顔で勤務することが、さらなる生徒の楽しさにつながるため、明るく楽しい職場になるよう一人一人が心掛けていきたい。</p> <p>もちろん教師は忙しい。日々次から次へと新たな課題が表出し、土日祭日関係なく活動もある。苦しさ楽しさを比較すると、おそらく苦しさの方が多いかも。しかし、その苦しさの中にも自分だけにしかわからない達成感があったり、ほんの一瞬の生徒の笑顔に心洗われたり、というような小さなやりがいがあったりもする。そこに楽しさや心のよりどころを持って、教師も悪くないなあと感じるだろう。このようなことを語り合える職場や仲間にしていきたい。</p> <p>一方、楽しくないと感じている生徒が5%いる。つまり全校では約22人である。大切なのは、多くの笑顔の陰に隠れているこのような生徒への対応である。教師はアンテナを高くし、広く情報を集め、個に応じた対応を心掛けたい。</p>					
	<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の笑顔が生徒の笑顔につながるため、教師がやりがいをもつよう心掛ける。(★全職員の努力目標とする)</li> <li>・様々な行事の中で、生徒の普段とは異なる姿が明らかになりやすい。2学期は行事が多いため、ここの生徒の様子をしっかりとかみ、個に応じた対応を徹底する。(★各担任の情報収集と学年集団で協働作業を行う)</li> </ul>					
	<p>②</p>	<p>授業や生徒のことなど、必要な時に職場で話げできた。</p>		<p>94</p>	<p>9</p>	<p>B</p>	
	<p>③</p>	<p>子供たちに信頼される教師であった。</p>		<p>85</p>	<p>18</p>	<p>B</p>	
	<p>④</p>	<p>教師としての力量を高めることができた。</p>		<p>91</p>	<p>9</p>	<p>B</p>	
	<p>考察</p>	<p>教科担任制をとる中学校では、例えば教科が異なれば授業について隣席の先生と語ることは少ない。同教科の先生と語るにも、空き時間が合うことは少なく、ましてや放課後も部活動があり、やっと時間が空くのは夜の帳が下りる頃である。しかし、このような繁忙の中にあっても、時間をやりくりしながら情報交換し、生徒のために労を惜しまず取り組んでいる姿が本校にはある。学校が次第に落ち着きを取り戻し、よき方向に向かっているのは、このような形にならない先生方の努力の賜物である。そして、学校が良くなってきているのは、先生方が信頼を得ているからであり、力量があるからあるいは高まっているからである。「そう思う」と言い切ることが難しい設問であるが、これが謙虚な回答だということは生徒の姿を見れば明らかである。</p>					
	<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の雰囲気先生方のメンタルヘルスに多大な影響を与えるため、学年の枠・年齢の差等を超えて、互いに語り合い、悩みあい、笑いあう職員集団となるよう、管理職が気配り心配りを励行する。(★校長、教頭、主幹教諭の声掛け心掛け)</li> <li>・良いものを認め合い、レベルの高いものを志向する教師集団であるために、常に研究と研鑽を続ける。(★研究主任、学年主任のリーダーシップ)</li> </ul>					
	<p>⑤</p>	<p>教師集団として、一つにまとまることができた。</p>		<p>85</p>	<p>15</p>	<p>B</p>	
	<p>生20</p>	<p>学校では、先生方が一丸となって、さまざまな教育活動に積極的に取り組んでいると思いますか。</p>		<p>88</p>	<p>12</p>	<p>A</p>	
	<p>保20</p>	<p>学校は、教育目標の達成に向けて、全職員が一丸となって積極的に取り組んでいると思いますか。</p>		<p>80</p>	<p>20</p>	<p>C</p>	
	<p>考察</p>	<p>職場の団結を示すときに”一枚岩”という表現がよく使われる。この一枚岩は形として一枚岩としてとらえると誤解を招く。常に同じことを全員で行うことが一枚岩なのではなく、共通の目標に向かってベクトルをそろえることが一枚岩なのである。目標に向かう過程は教師の個性により様々であっていい。それを認め合うことが一枚岩なのである。もちろん、時には壁に当たって歩みが遅れることもある。その壁を乗り越えるためのフォローを皆ですることが一枚岩なのである。</p> <p>しかし生徒は先生方の一枚岩を感じている。これはとても素晴らしい。そしてうれしい評価である。いつも接している生徒に認められることは、我々教師の一層の励みになる。生徒がこのように感じている以上、今後きっと保護者にも伝わるだろう。</p>					
	<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が教師集団を見る機会は少ない。しかしその数少ない機会に団結の証を見せたい。まずは学園祭がそのよい機会である。そして授業参観や学級懇談、学年集会の折に、教師集団の一体感が伝わる工夫をしたい。(★生徒会顧問、学年主任のリーダーシップ)</li> </ul>					

学校関係者  
ご意見

- 学校に来ることが楽しいと思っている生徒が多いことは好ましいことである。また、その様子を親も感じていることから、学校全体が良い方向に向いていることがわかる。
- 学校が楽しくないと感じている生徒が約一割いる。ぜひ先生方にはこのような子どもに目を向けて、すべての子どもたちが笑顔で学校生活を送れるよう取り組んでいただきたい。
- 先生方の努力の成果が、「学校が楽しい」生徒の増加につながっていると思います。本当にお疲れ様です。
- 大人にいろんな人間がいるように、先生方にもさまざまな人がいらっしゃることは容易に想像できます。しかし、先生方の姿は必ず子どもに伝わります。ぜひ一致団結する姿を常に見せてください。学園祭では先生方の素晴らしい団結力が見えました。

## 教師アンケートにおける具体的意見

教育目標について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動を自己評価し、次への反省としたいが自分の教科実践はやりっぱなしで次へ、ということが間々あったと反省している。反省を次回に生かせるようにしっかり記録を残しながら進めたい。</li> <li>・4項目とも、若中生に要求されている課題だと感じる。各教科の授業や道徳の授業で意識して指導していきたい。</li> <li>・やり抜かせるために関わる時間の余裕が少ない。</li> <li>・Planがあまりないまま、または突然変更になり、Do=決定、実行せざるをえない場面があり、戸惑うことがあった。</li> <li>・家庭環境などもあり、学校でも覇気がなく意欲を持たせるのが難しい生徒もいる。</li> <li>・本校においては、報告・連絡・相談がよく行われており、課題があれば改善に向け取り組んでいると思う。しかし、生徒の心の豊かさやたくましさ、また学習意欲の向上については、今後更に積極的に取り組んでいく必要があると思う。</li> <li>・B評価は、育成を心がけ、取り組んでいるが、生徒の実態として、まだまだの面もみられるから。</li> <li>・育成したい生徒像に向けて、今後も努力していきたい。</li> <li>・学びの共同体を通して、生徒どうしの繋がりをつくり、学習効果を上げようと継続研究を行ってきた。それによって生活面の改善も図られてきていると思う。しかし、今年度新しい職員が多いのでそれを途絶えさせないための取り組みが必要である。</li> <li>・よく学び、工夫する生徒の育成を心がけて取り組んでいるが、実際には、積極的に学習に取り組んでいる生徒は少ないように感じる。</li> </ul>
校務分掌について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや偏りが感じられる。部活動など、主顧問、副顧問の隔たりをなくすよう指導にあたりたい。</li> <li>①職員会議や校内研は昨年度まで、水曜日に実施していたが本年度は月曜日に実施しているのはなぜなのか？時間的な余裕は水曜日の方があると思いますが・・・</li> <li>②会議がテスト週間や事務処理を行わなければいけないときに集中する傾向が毎年見られ、改善されていない。</li> <li>・校内研に対する意識をさらに高めていかなければならないと考えています。</li> <li>・一人で職務にあたるのではなく、複数で行うことが大切である。「報・連・相」を励行したい。</li> <li>・決められた役割は、責任をもって果たしているが、子どもたちの現状を捉えて、新しい取り組みを実践していくことができていないと感じる。</li> <li>・分掌をきちんとしていけるよう、同学年の教員間で連携を図り情報の共有を常に意識しています。</li> <li>・一方で、他学年の教員同士での情報の共有が難しい状況なので学年間のみならず職員一同で情報の内容に誤りがないように、報告し合うなどの工夫が必要ではないかと感じます。</li> </ul>
学習指導・進路指導について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善は継続して行っていく課題だと思います。Aはつけられませんが努力していると思います。</li> <li>・進路指導に関しては、教育課程にそって1年次から計画的におこなっていただけるとよい。</li> <li>・ジャンプ課題の設定に苦労しています。時間的にも余裕がないので、今後もできる限り授業時間は確保する方向でお願いします。</li> <li>・基礎基本をなかなか定着させられない。</li> <li>・「学び合い」についてこれまでの認識と異なるところがたくさんあったので、先進校視察に行かせていただいたり、関連する本を読んだりして、少しずつ実践に取り入れたいと思っているところです。</li> <li>・少人数での活動を取り入れることが少なくなってしまう。実技教科なので両立しながら授業展開を考えていきたい。</li> <li>・授業内で学び合いを起こすような課題が提示できていないと反省している。先進校の取組を拝見したが、ヒントにしながら、さらに研修を積んでいき、授業実践を工夫したい。</li> <li>・小集団の学び合いをしていると、習熟度別の課題はできない。</li> <li>・言語活動や小グループによる学習、アクティブラーニングなど、生徒にとってどのような学習が効果的なのか、考え、実践していきたい。</li> <li>・基礎基本の定着に力を入れて取り組んでいるが、発展的な内容の学習や少人数グループの学習を活用する機会は少ない。</li> <li>・授業に参加できない生徒について、共通理解を持ち、今後の方針を統一した上で対応にあたる必要を感じる。</li> </ul>
生徒指導・道徳指導について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師間で生徒指導など、共通理解をし、同一歩調で行う必要を感じる。</li> <li>・道徳の授業では、資料の共有化ができると良いと思う。</li> <li>・早期発見・早期対応を心掛けているが、昨年度に引き続き長期欠席者が多く、なかなか復帰できない。</li> <li>・道徳授業は、行事との関係で実施できないことが多い。</li> <li>・道徳での学習指導や工夫の点で努力をしていきたい。</li> <li>・支援会議は、生徒理解には繋がるが、状況の改善までには、なかなか至らない。</li> <li>・他の活動に振り替えてしまうことがあり、道徳の授業を計画に従って実践できませんでした。</li> <li>・生徒指導部会だけではなく、学年ごとで指導がまちまちになっている様子がある。</li> <li>・1学期は道徳の授業を充実させることができず、反省している。2学期は行事などもあるが、道徳の実践を行ってきたい。</li> <li>・道徳については、平成31年度から「特別の教科」となる。しっかりとしたカリキュラムをできるだけ早い時期につくりたい。</li> <li>・生徒と積極的にコミュニケーションを図っている一方で、基本的な生活習慣の確立は不十分だと感じる。</li> </ul>



特別活動について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書の取り組みには全校の先生が協力的で、静かな朝を作っていると思います。この10分間に生徒がますます有意義な時間が過ごせるよう、読書案内や読書指導にもっと積極的に取り組んでいきたいと思ひます。</li> <li>・どの部に、どのような外部指導者の方が来てくださっているのか、わからない。職員全体にも知らせておいたほうがよいと思ひます。</li> <li>・学校の特色を生かした活動を仕組みたい。</li> <li>・朝読書や図書館の活用などを通して読書に触れる機会を十分に生かした指導が行えていない。</li> </ul>
家庭・地域との連携について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Cについては、自分自身があまり行っていない部分なので、他の先生方は非常によく取り組んでおられると感じています。教頭先生の「雑感」大好きです。</li> <li>・学校側から便りは発行しているが、それが家庭にきちんと届いているかどうか疑問である。</li> <li>・通信を発行しても、保護者の手元にまでは届きにくいところもあり、学校や学年の様子や情報・連絡が伝わりきらない。</li> <li>・ホームページ「学校のひろば」の「学校・学年のページ」の更新がされていないようです。忙しい中ですが、最新の情報を掲載するのがよいのではないかと思います。</li> <li>・学級だよりは伝えたいことがあるときのみで、定期的は出していません。</li> <li>・学級通信を発行するのが少なくなってしまっている。これから学級の様子や成果を伝えていきたい。</li> <li>・ホームページのアップがされていく必要があります。</li> <li>・学校・学年・学級通信等はとてもよく出されている。地域貢献活動・甲州遠光太鼓など、地域の人との交流も行っている。しかし、さらに相互の交流があると良い。</li> <li>・保護者と連絡を取り合いながら、教育活動を行なっているが、生徒の様子を公開するような学級だよりを定期的に発行できていない。</li> </ul>
自身と職場について	教師意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの先生方の異動があつたにもかかわらず、まるで何年も同じ釜の飯を食って来たかのようにツーカーで話ができる先生方と、職員室の雰囲気にも、活力をもらっています。自分もその一員としてできる限り協働できるようにしたいです。</li> <li>・やるべきことはたくさんあつたが、忙しさをいいわけに、どれも中途半端になってしまった。</li> <li>・信頼されるように努力しました。</li> <li>・力量をたかめられたかは疑問であるが、前向きに取り組む意識はあつたと思う。</li> <li>・「チーム若中」を日々、意識しながら、共通理解の一枚岩で指導に当たりたい。</li> <li>・新しい学校でのやり方や生徒の様子などに慣れるのに時間がかかりました。</li> <li>・答えるのに迷う質問が多かつた。</li> <li>・1学期は様々な指導が後手に回ってしまっていた。見通しを持った指導をしたい。</li> <li>・職員会議で全員で確認されたら、全員でやるという覚悟と割り切りが必要だと思ひます。若草中全体を良くしていくために生徒指導については、学年セクションというより学校全体の決まりの中で指導継続していくべきだと思ひます。</li> <li>・多忙ではあるが、お互いに一つの目標（学校教育目標の実現）に向かって協働できるような職場でありたい。多忙感ではなく、充実感を日々感じられるようにしたい。そのためには、職員のコミュニケーションが大切である。</li> <li>・学校で生徒や他の教師と関わることで、自身の力量を高めることができているので、これからも積極的に活動に取り組んでいこうと思う。</li> <li>・職員室にデスクがないため、自らコミュニケーションを取らなければ情報の共有がしにくい環境にあつたが、時間の取り方が上手にできず、課題が残った。自ら積極的にコミュニケーションを取る努力をしていきたい。</li> <li>・悩みなど、とても話しやすい環境です。諸先生方の教育指導などを真似ることから始まり、少しずつ教育現場にも慣れることができてきました。まだまだ、自分自身に改善点がいくつかありますので、来学期に向け努力していきます。</li> </ul>
学校関係者		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑、多様化、高度化していく学校教育となっているのがわかる。先生方も聖人ではないので、すべてに満足できる体制がとれるものではない。学校改革も進んできているようだが、生徒にも体力・能力と個人差があると思う。いつの時代も先生方の苦勞がうかがえる。</li> <li>・このアンケートを100%受け止めるのではなく、その数字の裏側にあるもの、言葉の裏側にあるものについて、適切な対応・対応に期待します。</li> </ul>